



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第410号

「主に結ばれているのならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです」(1コリント 15・58)

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

復活された主イエスの福音がわたしたちによって多くの人に届けられますように。

先日、『宣教司牧方針』が発表されたことを受け、福岡教区としてのこれか
らに向けて各自に具体的な行動が求められていることをあらためて気づかされ
ることになりました。もちろん、これまでも信仰を行動につなげることは求め
られていたわけですが、これまでだったら、自分とは直接関係がないことだと
して割り切ることもできたでしょう(信徒数も多く、おのずと誰かがしてくれ
るだろうという期待が生じ、実際、誰かがしてくれたのです)。しかし、現状
は異なります。現代の教会は信徒数の減少、信仰を伝達することの難しさ、価
値観に翻弄される信仰の問題などを抱えているからです。だからこそ、誰かが
してくれるのを期待して待つという感覚は逆に教会の使命を曇らせ、行動を鈍
らせてしまうことになるのです。もちろん、音頭を取るとか先頭に立って呼び
かける役割は大事ですが、本当に一つもできることはないと言って行動するこ
とはできないのでしょうか。自分が目の前のことに気付いているのに、気付い
ていない人と一緒になって気付かない振りができるのでしょうか。呼びかけられ
て協力するのならば、呼びかけられた人と共にするのです。つまり、協力なら
できるという人は、呼びかけてくれた人の背中を押して共に行動することにな
るということです。ほとんどの人は

「協力できることならばします」と答
えるでしょう。その言葉だけでも有難
いのですが、そんな方に伝えたいこと
は人の背中を押してあげることも協力
できることの一つ、しかもそれは大き
な意味を持つ行動でもあるということ
です。背中を押して先に行かせるので

今月の聖人	2面
旅の話(6)	3面
侍者だより	4面
幼稚園から	5面
委員会等報告	6・7面
キリスト像について	7面
お知らせ・こころの会	8面

はなく、横に並んで背中に手を添えて一緒に行動することを意味しているからです。

多くの悩みや苦痛で溢れ、しかも、それらのほとんどは理不尽なものだという事実を知りつつ、途方に暮れる現代社会の人々の姿を目にするわたしたち。私生活を送ることで精いっぱい周囲のことにまで気を留めることができないため、教会活動にまで力を入れられないとする思いはよく分かります。でも、今の時代に生まれてきた意味があること、他の誰でもなく自分が洗礼を受けてキリストのからだを形づくる教会の一員となっていること、信仰生活と社会生活とが遊離しないように求められていることなどを神さまから教えていただいたわたしたちは、現代社会においてすべての人の奉仕者にならなければならないのです。「宣教司牧方針」が他の誰でもなく、わたしたちの手にあることの意味を受けとめ、行動に移し、他の人に苦勞を背負わせる現代社会に奉仕していきましょう。それがキリスト者として今を生きている証なのです。

「主に結ばれているのならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです」(1 コリント 15・58)。



今月の聖人

13日 聖アントニオ (パドバ) 司祭教会博士 1195年-1231年
パドバの聖アントニオ

ポルトガルのリスボンに生まれました。15歳のときにアウグスチノ会に入り、司祭となりましたが、アフリカ宣教の望みを抱き、長上の許可を得てフランシスコ会に入りました。殉教の覚悟でアフリカのモロッコに渡りましたが、まもなく病気になる、帰国しました。その後、フォル市郊外のモンテ・パオロで、修道司祭として生活しました。あるとき、市の新司祭の祝賀会の席上、アントニオは長上から即座に演説を命じられ、よい話をしました。これを機に説教家として彼の才能が認められました。イタリアやフランスを巡って福音を伝え、多くの人びとを回心に導きました。



36歳の若さで亡くなり、その遺骸はパドバの聖堂に安置されました。その墓で多くの奇跡が起こったといわれています。

アントニオは、紛失物を探すときの助け手、婚姻・花嫁の守護の聖人として知られています。「毎日が、あたかも最初の日であるかのように思って行動しなさい。そして、あなたが始めた最初の日と同じ熱意をもって、常に行動しなさい」(聖アントニオ)

旅の話 (6)

岩本光弘

私が出かけた旅の半分は山の旅でした。山岳地帯に行きのピークに登ることもあれば目的地まで何日もかけて山岳地帯を歩くこともありました。ほとんどか標高が高い地帯なので体を高度に合わせる(高度順応)ことに時間をかけたこともありました。

このような旅は個人では計画することは難しいので専門の旅行者の企画で行くことにしていました。私たちの山の会のメンバーで計画を立ててその会社に依頼し、ネパールのアンナプルナ山群トレッキングや中国の四川省や雲南省の奥地のチベット高原への旅や横断山脈への登山もしました。国内では小笠原諸島への旅も計画して行きました。

山に登るために様々な国に行きましたが、キリスト教会には縁がないような国に行っても教会がありました。ネパールはキリスト教の布教が禁止されているのですが、アンナプルナ山群のふもとのポカラの郊外にはイエズス会の大木神父が障害児のための施設を作って30年以上奉仕されていました。その施設からシスターも誕生していて、来日して広島廿日市の「光の園育児園」や福岡の光が丘教会で働いていました。

2011年春に旅行社からミャンマーに行かないかという誘いがありました。そのころのミャンマーはまだ軍事政権でした。国内各地で少数民族勢力と政府軍が衝突していました。ところが数か月前に停戦交渉が成立したので、北部山岳地帯へは入れる許可が下りたので行かないかという誘いでした。映画「ビルマの豎琴」を見ていて一度は行ってみたい国だったので行くことにしました。手続きの書類は①ミャンマーへの入国ビザ ②北部自治区政府への入域許可申請の二通でした。3月に許可が下りたとの連絡があり、4月初めにバンコク経由でヤンゴンに行きました。ヤンゴンに一泊後、国内線でミャンマー最北の空港に飛びました。この飛行機は各駅停車でした。途中3か所に降りて4か所目が終点のプタオでした。

空港を出ると迎えの車が来ているというので行くとダンプカーでした。我々と支援スタッフと装備や食料を荷台に乗せて奥地に向かいましたが、途中の川には車が通れる橋が無く車は川に突っ込んでいきました。川から上れないところもありましたが、前についているウインチを前方の何本もの木に巻き付けて登りました。途中の家はすべて高床式の家でした。

大きな集落で休憩をしたのですが、通りの向こうから娘が一人やってきました。彼女が持っている本はどこかで見たことがあったので見せて貰うと讚美歌集でした。その時気が付いたのですが、その日は日曜日だったのです。その後家族連れの人たちも教会から帰ってきました。よく見ると集落に十字架が付いている家が何軒もありました。チャペルだったのです。集落全体がキリスト教の集落でした。私たちの現地リーダーと歩きながら聞いてみると、彼はカトリック教徒でした。空港があるプタオ地域の人口は5万人で、ほとんどかキリスト教徒と言うことでした。プタオ地区にはカトリック教徒は2千人いて教会もあり神父もいるという話でした。木と竹で建てた高床式の教会を見たいと思ったものです。(次へ続く)



侍者だより

遠賀地区 濱村 誠治



皆さん、こんにちは。今日は私が侍者をして
いた時の思い出と出来事を書いてみました。

2019年谷口神父様から「侍者をして頂けますか」と言われ、
私はただ「はい」の一言で返事をしましたが、後で「えっ、何で?もうい
い歳なのに…」と、不安と言いつが頭の中でよぎったのですが、心は何故か
嬉しかったのです。

侍者とは、罪のない子どもが一番神様も喜ばれるのでは、との思いが強い
のですが、主が言われた「医者が必要とされるのは病者である」との言葉が心
中で湧いてきて、背中を押されたような気持ちで御ミサにあずかっています。

特に、子どもたちと侍者をする時に、香部屋で何気なく話をするのですが、
その時の子どもたちの素直さと清い目を見る度に、心の清さと美しさがどれ程
価値があるかを実感しています。

谷口神父様はその日の朗読の説明や御ミサの中での所作についても話して
くださいます。

侍者をしていてこういう一例ではありますが、神様からの恵みをいただい
ています。

ミサ中の所作を間違えてしまうこともしばしばありますが、私は司祭と心
を合わせて、主キリストが生贄として捧げられ時にどれ程集中して感謝と
痛悔の思いを持てるかに、こころをよせています。

また、私のような喜びと恵みを多くの方にも味わってもら
いたいと主に祈っています。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 6月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

新学期初めての体操教室では、緊張していた子どもたちも、体操が始まるとお友達と楽しそうに活動していました。園庭では、神様から頂いた身体を沢山使って、縄跳びや鉄棒に挑戦しています。



5月は、聖母月ということで、子どもたちとマリア様にプレゼントするための「心の花束」の準備をしています。困っているお友達に優しくすると、子どもたちが話してくれました。これからも沢山の愛に包まれて、優しく育ててほしいです。



水巻聖母幼稚園 TEL:093 201 9559
e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp

<マリア子どもの家>



連休の合間の登園日に、スナップエンドウのツルを棚から外し、今日は、カラカラになったツルをごみ袋に入れて片付けました。スナップエンドウさん、美味しいおやつを有難うございました！蒸してたくさん頂きました。ツルの片付けを、お手伝いしようかな、と手を出しても、乾いたツルが触れないで、直ぐ手を引っ込めた子どももいました。



また、庭の端に植えたチューリップとフリージアの花が終わったので、みんなで球根を抜きました。出てきた土まみれの球根を、恐る恐るつまんでカゴに入れたり、土の中にいたダンゴ虫に目が留まって動けなくなったり～など、たくさんの驚きがありました。

次の日に、球根を抜いた後を耕すと、またまた球根が出てきました。肥料を入れて、今度は朝顔を植えましょう。

TEL : 050 5212 7759

HP : マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

委員会等報告

2022年5月分

5月度小教区委員会 5月1日

1. 行事予定

- ・6月 5日(日) 小教区委員会
- ・6月12日(日) 18時～ベトナム語ミサ。
- ・6月19日(日)9時ミサ後～日本語交流会

2. 議題

(1) 各委員会報告

①広報委員会

・今後、掲示板を活用して“今月のことば”を載せる(第2週目より)。カトリック新聞の記事を参考に。担当者は常定基子氏。

②典礼委員会

- ・聖週間の典礼において奉仕していただいた方々に感謝。復活徹夜祭のミサにて歌唱するかたちを取ったが、今後しばらくは答唱詩編とアレルヤ唱のみを歌唱することとする。
- ・待降節から移行する新しいミサ式次第のための研修会を定期的に信徒全体に呼びかけて行う(信徒総会後からを予定)。
- ・オルガンのメンテナンスを行う(5～6万円ほどかかる見込み)。

③営繕委員会

- ・尖塔部分について。排煙装置と排煙窓の改修工事および蛍光灯の配線工事は屋根の葺き替え工事と並行して行う。
- ・撤去した鐘楼について。屋根の葺き替え工事が終了したあとの設置を考えている。協力者が必要なので個別に声掛けをする。新しい鐘楼が完成した際には完成式も行いたい。
- ・2階の掲示板の再利用を考えているが、劣化が進んでいるため改修が必要。

④総務委員会

・4/17(日)のミサにおける着物イベントについて。好評だった。着付けのために駆けつけて下さった方もミサに参加して下さい。感謝申し上げたい。

⑤冠婚葬祭の会

・代表者について。一部の方から拳手あり。5/8(日)の午後に集まりを開き、そこで代表者を正式に決定する予定。同時に協力者も不可欠なため、再度、奉仕の内容について確認する。

(2) 会計監査について

・5月21日(土)13時半より、主任司祭と役員との立会いのもとで大塚孝氏に監査をお願いする。

(3) 小グループに関して

・新しい代表者も加えた2022年度の名簿を確認。そのまま総会資料とする。

(4)、各委員会および小グループにおける資料(規約や規定)の保管について

・聖堂内と図書室に各種規約、規定などをファイルに綴じて閲覧できるようにしてほしいとの要望があったため、まずは司祭館にある小教区委員会用のPCで文章データを整理、保管、および改定する作業を始める。それに合わせて、公開すべきものの見直しや、改定すべき内容かどうかを各委員会

で検討してもらおう。

・今後、委員会の内部での取り決めや申し送り等などもすべてをデータ化し、引継ぎにも活かせるようにする。このPCを充分に活用して欲しい。

(5)「宣教司牧方針」を今後の教会活動にどのように活用させるかについて

・2027年、教区設立100周年を迎えるにあたり、福岡教区に属する教会として、これまでを振り返り、これからのために発行された「宣教司牧方針」をもとに動き出したい。まずは5/8(日)のミサから読み合わせを行うことにする。これをきっかけに実際に個人として、共同体としての具体的な活動につなげられるようにしていきたい。

『横尾龍彦さんが作られた、キリスト像について』

聖堂正面に掲げられている十字架のキリスト像は、画家であり彫刻家の「横尾龍彦」の作品です。今年12月に北九州美術館で横尾龍彦さんの個展が予定されているそうです。北九州美術館では個展開催の準備が進められていて、水巻教会にキリスト像が設置された経緯を知りたい旨、連絡がありました。

設置時期は不明ながら手がかりもあり2009年ではないかと思われます。横尾龍彦さんに依頼したいきさつ、設置の経緯などご存知の方がおられましたら広報までお知らせください。



6月のおしらせ

★ウクライナ支援をお願いします★

ウクライナ危機人道支援募金のご協力をお願いします。ご協力していただける方は、カリタスジャパンへ、各自で振り込みをお願いします。

《振込先》

郵便振替番号：00170-5-95979

加入者名：

宗教法人カトリック中央協議会
カリタスジャパン

※通信欄に「ウクライナ危機人道支援」と明記してください。

★特別献金★

復活祭祝日献金 63,847円
ご協力、ありがとうございました。



【こころの会】

5月22日 10時10分から、「こころの会」が第1回目のイベントを開きました。参加者は約50人。参加者が多くなったため、急遽会場を聖堂で執り行いました。今回ブルーレイで鑑賞したのは教皇様の来日とメッセージを紹介したNHKの番組と福嶋東巳子さんが長崎で撮った実写。来月号で「こころの会」の今後の日程を紹介していただく予定です。



【ブルーレイ上映会の様子】